

令和5年度第1回大田区環境審議会 議事要旨

【開催日時】 令和5年8月4日（金） 午後1時30分～午後3時30分

【会 場】 大田区役所本庁舎2階 201・202会議室・オンライン

【出席委員】

おく まみ 奥 真美	東京都立大学都市環境学部 教授
しまだ まさふみ 島田 正文	一般社団法人日本公園緑地協会 研究顧問
ししめ ともひろ 志々目 友博	中央大学 教授
はせがわ のりこ 長谷川 紀子	公募区民
たむら まさゆき 田村 昌之	公募区民
おおかわ ゆかり 大川 由香理	公募区民
やまもと ゆきお 山本 幸男	大田区自治会連合会
ちば しげる 千葉 茂	東京商工会議所大田支部
かみたち しろう 上田 志朗	NPO 法人 大田・花とみどりのまちづくり
さかの たつろう 坂野 達郎	おおたクールアクション推進連絡会
こやま きみこ 小山 君子	大田区清掃・リサイクル協議会
しまだ まさふみ 島田 正文（兼務）	グリーンプランおおた推進会議
まばし やすとき 馬橋 靖世	まちづくり環境委員会 委員長
かわらだ ひかる 河原田 光	企画経営部 施設整備担当部長
おおき やすひろ 大木 康宏	産業経済部長
にしやま まさと 西山 正人	まちづくり推進部長
えんどう あきら 遠藤 彰	都市基盤整備部長
やまだ りょうじ 山田 良司	環境清掃部長
いまい けんたろう 今井 健太郎	教育総務部長

（以上、敬称略）

【傍聴者】 なし

【関係部局】

施設保全課長、工業振興担当課長、都市計画課長、都市基盤管理課長、環境対策課長、清掃事業課長、指導課長

【事務局】

環境計画課長、環境計画課計画推進・温暖化対策担当

【次第】

- 1 開会
- 2 委員の自己紹介（新任4名）
- 3 議題
 - 議題1 令和4年度大田区環境アクションプランに基づく実績報告（大田区の環境）
 - 議題2 （仮称）第2次大田区環境基本計画の策定について
 - 議題3 大田区環境審議会専門部会の設置について
- 4 閉会

【配布資料】

- 資料1 令和5年度大田区環境審議会名簿（令和5年5月23日時点）
- 資料2 「大田区の環境」令和4年度実績報告について（概要）
- 資料3 （仮称）第2次大田区環境基本計画の策定について
- 参考資料1 「大田区の環境」令和4年度実績報告について（冊子データ）
- 参考資料2 計画策定における体系デザインの考え方
- 参考資料3 大田区環境審議会専門部会の見直しについて（令和4年度配布資料）

***** 以下、議事全文 *****

1 開会	
環境計画課長	配布資料の確認。 本日は傍聴者、欠席委員はいない。 議事録作成のため、会議は事務局で録音させていただく。 これより奥会長よりご挨拶をお願いしたい。
奥会長	司会を務めさせていただく。 今年度に入り第1回目の環境審議会であるが、コロナの影響により、緊急避難的に3か年計画の環境アクションプランを策定し、令和4年度はその初年度に当たっていた。 本日は、その環境アクションプランに基づいた取り組みの初年度のご報告とその成果についてご確認いただき、ご意見をいただきたいと考えている。 また、令和7年度からは本格的に第2次環境基本計画を策定し推進していくため、そちらの内容についてご審議いただく予定である。 大田区は7月下旬ごろから基本構想審議会の方も立ち上がっているが、基本構想の中にこれまで環境審議会でも取り上げてきた気候変動の問題や、循環型社会の形成、自然共生社会の形成に向けた内容も反映していくということで、私も基本構想審議会に関わらせていただいている。 皆様からいただいたご意見も踏まえ、大田区の最上位である基本構想の方にも反映

	<p>していければと考えている。</p> <p>よって、皆様からのご意見は非常に貴重なものになるため、本日は忌憚のない活発なご意見を頂戴できればと思っている。よろしくお願ひしたい。</p>
2 委員の自己紹介（新任4名）	
【資料1】	
環境計画課長	<p>今年度4名の委員交代があったため、新任の委員の皆さまに自己紹介をお願いしたい。</p> <p>資料1の令和5年度大田区環境審議会名簿をご覧いただきたい。</p> <p>事務局よりお名前をお呼びするので、会場参加の委員の方はご起立の上、モニターの上のカメラに向かって一言自己紹介をいただき、オンライン参加の委員の方は、お呼びしたら、カメラとマイクをONにして一言自己紹介をお願いしたい。</p>
新任委員	<p>=自己紹介=</p> <p>山本委員、馬橋委員、大木産業経済部長、山田環境清掃部長</p>
環境計画課長	<p>以上、4名の新任委員である。</p> <p>また、会場には事務局として環境計画課、オブザーバーとして外郭団体である大田区環境公社から出席していただいている。</p> <p>これより、議事進行を会長と交代させていただく。</p>
3 議題1 令和4年度大田区環境アクションプランに基づく実績報告（大田区の環境）	
【資料2】【参考資料1】	
奥会長	<p>ここから、私の方で議事進行を務めさせていただく。</p> <p>本日の議題は3つあり、事務局から説明をした後に委員の皆様からご意見等をいただく形で進めさせていただく。</p> <p>会場とオンラインを併用の開催のため、議事進行にあたっては事務局にも一部補佐をお願いしたい。</p> <p>それでは、議題1「令和4年度大田区環境アクションプランに基づく実績報告（大田区の環境）」について審議を進める。</p> <p>まず、事務局から説明をお願いしたい。</p>
環境計画課 計画推進・温暖化対策担当 係長	<p>事務局の環境計画課担当係長 西山より説明させていただく。</p> <p>資料の方は、資料2と参考資料1をご案内することになる。</p> <p>まず議題1、これは報告事項である。</p> <p>平成24年度から令和3年度まで10年間の計画期間があった大田区環境基本計画に続き、昨年度、令和4年度から3年間の緊急計画ということで、大田区環境アクションプランがスタートした。</p> <p>以前の環境基本計画では、毎年環境審議会を経て、1年間の実績を「大田区の環境」という冊子にまとめていた。</p> <p>今回の環境アクションプランにおいても、参考資料1として添付している、例年の通り実績報告をさせていただく。今回は令和4年度の報告となる。</p> <p>資料2の1枚目では、現計画における体系、各基本目標、取組方針、施策とそれを</p>

	<p>担当する部局を一覧にして示している。</p> <p>現計画の基本目標はAからEの5つあり、それぞれに取組方針、施策がぶら下がっているつくりとなっているが、これはその確認資料である。</p> <p>そして2枚目は、計画の進捗管理指標を一覧にし、計画1年目における進捗状況をまとめたものであり、各取り組みがどの程度進んだかを進捗率という形で示している。</p> <p>今回の特徴としては、新型コロナの影響によりリアルで参加する活動事業の進捗率が全体的に低かったことが挙げられる。例えば、区民事業者団体への活動支援件数や、自然環境調査に参加する区民数、自然観察会の参加数などである。</p> <p>一方、目標値に近い項目もあり、例えば、大田区役所の温室効果ガス排出量の削減や、公共施設緑化実績が挙げられる。</p> <p>また、計画1年目にしてすでに目標値を超えている項目もあり、例えば、区民1人当たりの公園の標準面積や、自然観察会の応募者数、喫煙に関する苦情・相談件数が挙げられる。</p> <p>これら含め、全項目を単純に平均した値で、85.8%の進捗率となっている。</p> <p>なお、単純平均の場合300%を超える極端な項目もあり正確性を欠く恐れがあるため、達成済みの項目を除いた平均を算出した結果は63%という状況になっている。</p> <p>この進捗に関して具体的にどのような取り組みを行ったかについては、参考資料1の「大田区の環境（暫定版）」をご参照願いたい。</p> <p>こちらは冊子形式の情報量の多い資料のため、本日は個別の説明は省略させていただく。質問等は改めてメールや電話等でお問い合わせ願いたい。</p> <p>回答について、次回の審議会にてまとめてお答えする形をとりたいと考えている。</p> <p>「大田区の環境」を暫定版としている理由は、以前の環境基本計画、現計画の両者とも、計画体系や進捗管理指標の分類などが十分整理できていない面があるためである。</p> <p>事務局としてもこの見直しが必要と考えており、二次計画の策定と並行してこれらを整理していくために、今回の例年通りの形での報告は暫定版としている。</p> <p>この表にてお示ししたのは、あくまで従来の方法に倣って取りまとめたものであり、現行計画の実績評価の課題は二次計画の策定に密接に関係するため、議題2で改めて説明する。ここでは報告までとさせていただきます。</p> <p>議題1については以上。</p>
<p>奥会長</p>	<p>ただいまご説明いただいた議題に関して、ご質問やご意見等あればお願いしたい。</p>
<p>千葉委員</p>	<p>全体の進捗状況が85.8%であるが、比較的重要なものが未達成で、それほど重要でないものの達成率が高いように感じる。未達成項目について今後、きちんと達成される見通しがあるのか教えていただきたい。</p> <p>また、喫煙の問題や、ごみの問題などあるが、やはり教育でこれをきちんと伝えていくことが大事なことではないかと思う。</p> <p>今例えば電車の中などで盛んにコマーシャルが流れているが、そういった形で若い</p>

	<p>方たちに環境にもっと関心を持ってもらうような活動も、長い目で見ると大きな効果になるのではないかと思う。</p> <p>以上2点、ご意見を申し上げさせていただく。</p>
奥会長	<p>事務局の方で、数字をどのように評価するかについては議題2の方で説明がある予定か。</p>
環境計画課 計画推進・温 暖化対策担当 係長	<p>その予定である。</p> <p>お示した数字については、表しきれてない部分や、数値のとり方に課題のある部分がある。この部分に関しては事務局の方も問題意識を持っており、また議題2の方でご意見をいただきたい。</p> <p>この数値は、従来通りの方法で示したところのご報告である。</p>
奥会長	<p>では、千葉委員、議題2の説明を受け、さらに質問等されたい場合にいただければと思う。</p> <p>他の方はいかがか。</p>
山田委員	<p>先ほどの千葉委員がおっしゃった2点目の教育を通じてという部分について、行政としても重要視している。</p> <p>教育委員会の方でも様々な取り組みをしていただいております、一例であるが現時点での予定として、令和7年度ごろを目途に「おおたの未来づくり課」というカリキュラムができると聞いている。</p> <p>ちょうど第二次の環境基本計画や、区の基本構想ができ上がっていく時期になるため、SDGsを進めていく自治体として、重要な項目の進捗率の表し方なども見据えながら、これからを担っていく子供たちに教育を通じて伝えていく、そんな連携を取っていきたいと思っている。</p> <p>以上、委員としての意見と、区としての意見を合わせて述べさせていただいた。</p>
奥会長	<p>他の方はいかがか。</p>
奥会長	<p>先ほど事務局からも説明があったが、進捗率の表し方に十分に統一が図られていない部分も見受けられる。</p> <p>例えば「省エネ行動に取り組む区民の割合」や、「緑の多さに満足している区民の割合」という数字は、目標値に照らした進捗率ではなく、実績値のパーセンテージがそのまま進捗率の部分に入っているため、目標に向けてどの程度の割合なのかを示す値になってない。</p> <p>ちなみに、進捗管理指標Cの⑤の部分は参加者数と応募者数の2つがあり、参加者数の進捗率は47.3%であるが、応募者数の方が159%になっている。これは応募者が多くあったが、人数を絞り込まざるをえなかったという理解でよろしいか。</p>
環境計画課 計画推進・温 暖化対策担当 係長	<p>この進捗管理指標Cの⑤の部分については、新型コロナの影響により、応募はあっても受け入れ数の制限等で、参加者数が少なくなっていると考えられる。</p>
奥会長	<p>実績報告の本体である参考資料1の方を見れば、理由について記載があるか。</p>

環境計画課 計画推進・温 暖化対策担当 係長	こちらについては確認し、調べた上でまたお答えする。
奥会長	<p>承知した。先ほどの千葉委員の1つ目のご指摘の関連で、数字が示されてもそれがなぜなのかという部分は実績報告の本体の方で、しっかりと確認できるようにしておいていただく必要がある。</p> <p>本来は報告事項なので、内容的に報告の仕方を変えられるのかは分からないが、報告を作成する際には、そのような部分にもご留意いただきたい。</p> <p>他に意見はないようなので、議題1「令和4年度大田区環境アクションプランに基づく実績報告」については、承認とさせていただいてよろしいか。</p> <p>疑問点については、事務局から改めて別途ご回答いただけるということであるが、これは他の委員の皆様とも共有していただくようお願いしたい。</p> <p>では、議題2に移らせていただく。</p>
3 議題2 (仮称) 第2次大田区環境基本計画の策定について	
【資料3】【参考資料2】	
環境計画課 計画推進・温 暖化対策担当 係長	<p>議題2は、次期計画の策定についてであるが、資料3の1枚目は今年の3月の審議会でお示ししたものと同一である。</p> <p>その際の振り返りになるが、環境基本計画はここで示しているように区の環境部門最上位計画であり、区の基本構想や基本計画を環境面で支えるものである。</p> <p>現行計画の大田区環境アクションプランは、令和3年度に第一次計画の計画期間が終了したため二次計画の策定準備を進めていたが、新型コロナの影響などにより緊急的に3年間の計画を策定したものである。</p> <p>今後二次計画については、今年度と来年度の2か年をかけて策定していくこととなり、今年度の目標は骨子案を形にするところまでと考えている。</p> <p>次に2枚目の資料では、策定に向けての考え方を整理したものを示している。</p> <p>なお、事前にお送りした資料から少し修正があり差し替えている。</p> <p>もし先にお送りした資料を見ている方の場合は、区での業務委託の範囲などを記載していた部分を、検討内容と読み変えていただきたい。</p> <p>実際の策定作業については、区の職員や審議会の議論の主導で進め、その次に受託事業者のノウハウで補強していくものである。</p> <p>委託については現在公募中であり、9月半ばまでに事業者を決定し、10月から業務を開始する予定である。</p> <p>2枚目の資料の内容については、今春から環境清掃部内でワーキンググループを立ち上げ、現計画における課題の洗い出しを行ったものである。</p> <p>5つの基本目標に分けて環境の課題を抽出しており、今後関連部局にもヒアリング等を実施し、全庁的に展開していく予定である。</p> <p>なおここで示しているのは、環境清掃部内の職員の視点で課題出しをしたものであ</p>

る。

この他に必要な視点や考えうる課題などがあれば、後ほど委員の皆様からご意見をいただきたい。

そして3枚目の資料であるが、これは計画策定作業に関わる基礎調査の実施内容を示している。

これまでの基礎調査では意識調査が主であり、計画の推進体制との連携が取られていないという問題や、年度ごとの予算取りに左右され定期的・定点的な調査が実施できない問題があった。

よって、現状では無料で手に入る統計数字や実施事業の結果値だけで計画を推進しており、議題1の進捗管理指標から分かるように、これでは適時適切な施策事業の評価がしづらい。

つまり計画推進とその進捗を適切にモニタリングするには、必要な調査をセットで考えるべきであろうということで、今後、意識調査以外の項目を洗い出して整理したいと考えている。

資料は、これまでの調査状況を5つの基本目標別に分類して表している。

この他に必要となる専門的な調査や、区民・事業者へのアンケート項目などがあれば、後ほど委員の皆様からご意見をいただきたい。

もちろん調査は予算的な制約の中で実施することになるため、やり繰りは必要になるが、最初の会議である現段階ではジャストアイデアでも忌憚ないご意見をいただきたいと考えている。

次に4枚目の資料であるが、これは施策体系とそれに基づく進捗管理指標の検討内容を示している。

これは今後検討していくにあたって全体像を分かりやすくするために、あくまで現在の基本目標を見本にイメージ化したものであり、これで決定ということではない。

ここでは目標の設定年を2050年及び2030年と仮置きしている。

2050年については、地球温暖化対策推進法の基本理念となった脱炭素社会の実現年や、大田区環境アクションプランで掲げている「大田区環境ビジョン2050」などに則っている。

また2030年については、区が選定されたSDGs未来都市にちなんだSDGsの目標年や、今年の3月に公表された新しい生物多様性国家戦略の目標年、昨年度ご審議いただいた大田区脱炭素戦略で定めたカーボンハーフの目標年などに則っている。

そして参考資料2は、普段馴染みのないKGIやKPIといった用語や、計画とはそもそものようなデザインになっているかを、イメージ化したものである。

これを念頭に以降の議題内容を聞いていただきたい。

まず、計画にはVision＝理念や看板があり、これを実現するまでの道筋に3つの問いがある。

Where＝どこを目指すか。目的地。

What＝そのために何をすべきか。課題。

How=それをどのようにするか。手段。

皆様のお手元にある緑の冊子、現計画の環境アクションプランに当てはめると、14ページにある「環境と生活・産業の好循環を礎とした持続可能で快適な都市（まち）」がVisionにあたる。

Whereは次ページ以降の基本目標A～Eが該当し、Whatは施策、取組方針が該当する。そして、Howは施策の中の個々の事業というイメージである。

また、実際に計画推進していく段階で、その進捗を測るものが、参考資料2の右側にあるKGI、KPIとなる。

Whereの部分で、どれだけゴールの方に近づいたかを測るのが、KGIであり、Howの部分で、ゴールに近づくための活動や手段のパフォーマンスをどれだけ上げたかを測るのがKPIである。

何故今このイメージをお伝えしたかという、第一次環境基本計画や環境アクションプランはこういった指標の整理の仕方をしていないためである。

議題1の方でもお伝えした通り、進捗管理指標の中で、KGIとKPIが混在している状態となっている。

加えて、一次計画や環境アクションプランでは各事業に対しABC評価をしているが、例えばA：計画以上の進捗があった、B：計画通りの進捗があった、C：一部進捗した、D：進捗しなかった、というように所管課の主観的な評価で終わってしまっている部分がある。

事務局としては、この定量的な評価ができていない状態に問題意識を持っている。

KGIとKPIが混在していると、今自分たちがどこにいて、ゴールにどれだけ近づいているかという視点と、どれだけのパフォーマンスを上げているかという視点が一緒になってしまう。

このため、手段が目的化し、目的化すると途中でやめられず、手段の見直しができないということが起こり、なかなか事業の新陳代謝が進まない状況に陥りがちである。

そこで、今お示ししている参考資料では、先ほど議題1の方でお示した環境アクションプランの進捗管理指標に、KGIやKPIを割り当て整理した。

これはあくまで事務局が想定した暫定的な分類であるため、今後議論が必要となる部分もあるが、粗々ではこのようになる。

議題1の資料では、一番右の列を従来通り一律に「進捗率」と表していたが、こちらの資料では、KGIの場合は「達成度」、KPIの場合は「遂行率」と表現した。

これの「達成度」を見れば、やるべきことがどれだけ達成できたかが分かり、「遂行率」を見ると、お示ししているように例えば、A：80%超、B：50%超～80%、といったような定量的な評価ができる。

また、遂行率はHow=手段の部分であるから、これで評価が悪いとなれば、機動的・積極的に手段を入れ替えていく考え方もできるはずである。

近年のような時代の変化が早い中では、事業を見直しながら入れ替えていく必要が

	<p>あるため、こういった評価方法により事業の新陳代謝に繋げていく必要がある。</p> <p>さらに資料を見ていくと、基本目標Aの進捗管理指標がすべてK P Iとなっていることが分かるが、他の基本目標と並列になっているため、まるでこれがゴールのように見えてしまう恐れがある。</p> <p>この基本目標Aの位置付けについて、これでよいのか議論の余地があると考えます。</p> <p>例えば、基本目標AをB～Eと切り離し、他の基本目標に横串を入れるような行動計画として管理することも一つの考え方として選択肢となり得る。</p> <p>このように進捗管理についてはなかなかうまくできていない部分があるので、計画体系の部分も含め、委員の皆様の視点からのご意見をいただきたい。</p> <p>議題2については以上。</p>
奥会長	<p>これから第2次環境基本計画を策定していくにあたり、今年度はまずは骨子を固めていく作業をしていくということで、その作業するにあたっては業務委託を活用し、基礎調査をした上で、進めていくというご説明であった。</p> <p>この業務委託に関して資料3で①～③の3点ポイントが提示されたが、この議題に関して、ご質問やご意見等あればお願いしたい。</p>
坂野委員	<p>私はクールアクション推進連絡会から代表で出席しているが、連絡会の方では2月ごろからどんな取り組みができるかということを議論していた。</p> <p>その際に、事業者としては何ができるかについて話すと、大田区の事業者は資源を使わずに生産することや、循環型の産業のあり方、及び製品づくりに、実は随分昔から取り組んでいるというお話を聞く。</p> <p>また、このことを活かすことがやはり大田区の特徴ではないかという話が、多くの参加者から出てきた。</p> <p>ここで課題の抽出（ポイント①）に関連すると思ったのは、循環型社会の構築という点、通常、循環型の産業構造に変えていくことや、消費者サイドも循環型の生活構造に変えていくことが含まれることである。</p> <p>しかし、現状はどちらかというと主にごみの問題にフォーカスが当たっているために、クールアクションでの多様な産業に対する意見が、循環型社会の構築に必ずしも反映されていないのではないかという気がする。</p> <p>循環型社会の構築を標ぼうしたときには、やはり大田区の事業者としては、産業視点の循環型構造に一体となって取り組みたい。</p> <p>あるいは、食材は施設の余剰分を買うとか、メニューづくりの際はカーボンフットプリントの小さいものを地産地消できるようにするとか、生活構造を変えていくことも必要である。</p> <p>次の計画ではこのようなことも反映されるような仕組みになったらいいと感じた。</p>
奥会長	<p>非常に重要なご指摘である。</p> <p>基本目標Eは出口の部分にしかフォーカスしていない形になっているので、ものづくりやその消費段階における循環型社会への貢献、それに寄与する活動などそういった部分からフォーカスしていく必要があるのではないかと、というご指摘であった。</p>

千葉委員	<p>施策体系の検討（ポイント③）の共通ビジョンの部分において、温室効果ガス排出量実質ゼロ、プラスチックごみゼロ、食品ロス実質ゼロということがビジョンとして掲げられているが、アクションプランの方にそれを実現するような施策があまり見受けられないように感じる。</p> <p>先ほど坂野委員がおっしゃったように、プラスチックごみゼロの場合には、事業者の方がプラスチックを家庭の中に持ち込まないような仕組みをつくる必要がある。</p> <p>そういった視点が少し欠けているように感じたため、意見として申し上げさせていただく。</p>
奥会長	<p>そもそも事業者がプラスチックの使用量を減らしていくという視点が計画に欠けているのではないかというご指摘であった。</p> <p>ぜひ次期基本計画の中ではそういった点をしっかりと落とし込んでいくよう、意識していただければと思う。</p> <p>事務局から何か回答はあるか。</p>
環境計画課長	<p>プラスチックがごみとして自然界に流出すると、非常に大きな影響を及ぼすということは私どもも認識しているところである。</p> <p>一方で大田区はものづくりのまちであるため、プラスチック業界の事業者も多い。プラスチック自体が悪ではなく、プラスチックを正しく捨てないことで及ぼされる自然界への影響が悪であると考えます。</p> <p>よって大田区としては、プラスチックごみを出さないようなあり方や、捨てる際には正しく捨てるというような行動変容に結びつけていくことが重要であると考えているため、皆様と基本計画を策定するにあたっては、そうした産業と環境の両立という視点も踏まえて議論を重ねていければと思っている。</p>
馬橋委員	<p>今回の課題の抽出（ポイント①）の中で、業務委託という形となるため、行政では調査や研究にかなり重きを置いて時間がかかりがちである。</p> <p>また、環境分野は先ほど事務局の方から説明があった通り、トレンド化してきている部分もある。資料に横文字も多い。</p> <p>私もまちづくり環境委員会で日頃から環境対策に携わっているが、一区民の視点ではなかなか分かりづらいつらいつらところがあると思っている。</p> <p>そういった中で、抽出した環境課題には、例えばパートナーシップの推進のところに「区民や事業者等が主体的に取り組む仕組みづくり」をするという文言があるが、先ほどの実績報告では、省エネ行動に取り組む区民の割合が基準年度よりも下がってしまって27.8%となっている。</p> <p>つまり重要なのは、いわゆるトレンドや、格好のいい目標ということよりも、やはり一人一人の区民が環境に対する取り組みに気持ちを入れていくということだと思っている。</p> <p>一方で、東京都や国から2030年・2050年にカーボンハーフ及びカーボンゼロのような目標が重く落ちてきているという部分もあるため、行政として、こういった形で旗を振っていくのかを、今回の環境基本計画の方にはしっかりと落とし込んで欲しいと</p>

	<p>思う。</p> <p>あと質問という形になるが、この計画は、区役所の実務の中での実行計画という考え方なのか、それとも区民に見せて、区民が自分たちの生活の中で目標を立てて行動を起こしていくための計画という考え方なのかお聞きしたい。</p> <p>区民が見て分かりやすい計画であるべき部分も必要と思っている。</p> <p>そういった面で計画策定についての考え方を教えていただきたい。</p>
環境計画課長	<p>昨年度大田区脱炭素戦略を策定する際にも議論を重ねてきたが、やはり一番の課題はいかに分かりやすくお伝えするかということであった。</p> <p>脱炭素という言葉にまず馴染みがないという点と、どのようにすればどれだけの効果が得られるかが見えにくい中で、また国の示す算定基準根拠を説明しながら策定をしていかなければならない点があった。</p> <p>環境基本計画は全ての皆様にご理解いただいた上で、皆で取り組んでいくものであるため、私どももできる限り分かりやすい計画策定に努めていきたいと思う。</p> <p>今回資料に専門的な言葉が多く、分かりづらい部分についてはお詫び申し上げます。</p>
馬橋委員	<p>こういった会議の説明資料はまだよいが、区民の方がその計画を見て分かりやすい資料があるべきだと思っている。</p> <p>あと、やはり実効性が高い計画でないといけないと思う。</p> <p>以前山田部長ともお話したが、今日この飲料水が缶で出ているが、区役所は今プラスチックの問題でペットボトルを捨てられない。</p> <p>しかし、コンビニに行けばお茶がペットボトルで売っているなど、まだまだ実態と目標の乖離が大きい部分もあるため、そういった部分に関しては、SDGs 未来都市のダブル選定のようなツールもしっかり使いながら、ぜひ区民の方に啓発をしていただきたい。</p> <p>計画目標で啓発を出している中で、省エネ行動に取り組む区民の割合を基準値より下げることがないよう、この辺りはしっかりと頑張りたいと思っている。</p>
坂野委員	<p>まずポイント②の意識調査について、先ほど省エネ行動に取り組んでいる方が少ないというお話があったが、クールアクション推進連絡会ができる以前の組織の頃より、省エネ行動への取り組み自体が見える化できないかという議論がある。</p> <p>電気などのエネルギーの使用量が取り組みによって程度減ったかが見えづらいということである。</p> <p>現在は、東京電力が設置したメーターにより、個人的な電力使用量については毎日ベースで確認可能であるが、まちづくり的な観点からの取り組みとして見るときは、あるコミュニティ単位やある自治会単位での削減量の集計が必要となる問題がある。</p> <p>大手企業では見える化をしていることもあるが、中小企業の方たちはなかなかそこまでできていないような現状である。</p> <p>よって、予算や手間がかかるので簡単ではないが、もし可能であれば、サンプリング的なことをやり、区民の方たちがコミュニティ単位で取り組みをした際に、どの程度エネルギー消費を削減できたかが分かるようになるとういと感じている。</p>

	<p>それと関連して、ワタミさんが自身の財団でフードリサイクルループというのを確立しようという動きがある。</p> <p>彼らはリサイクルループの実現により、どの程度フードロスが減ったか、あるいはどの程度カーボンフットプリントが小さい食品を使えているかについて、独自に調査をしようとしている。</p> <p>こういったことを含め、計画策定年度ごとに、数年に1回やるのではなく、もう少し短いサイクルで行動結果が見えるような調査をやっつけていかないと、施策の効果を適正に評価しづらいと感じている。</p> <p>出来る可能性があれば、この機会にご検討いただきたいと思う。</p> <p>また、ポイント③のKGIとKPIの設定の仕方についてであるが、現計画の体系は、まず方針があり、施策があり、その下に事業がある形となっている。</p> <p>そうすると、KGIは方針ごとに設定でき、KPIは施策ごとに決まるが、おそらく本来は事業ごとに評価する行政活動指標のようなものがあり、3レベルに分かれるのではないかと思う。</p> <p>各事業をどういう行政活動指標で評価するかを検討し、場合によってはその中から特に戦略的に重要なものや、象徴的なものをKPIと考えたりすることもできる。</p> <p>その事業が達成されることによって方針にどう結びつくのかを検討し、ややアウトカムに近いような形で指標を考えるとよい。</p> <p>言葉的な意味で考えてしまうと、方針と施策と事業の間の齟齬が生じやすいと思うので、方針と施策と事業のあり方を双方向で見直すことをした上で、計画を作っていくのがよいと思った。</p> <p>現計画にKGI・KPIを落とし込むと、各基本目標にKGIがあるものとなないものが混在するというのは、おそらく今言ったトップダウン的に決めるやり方と、ボトムアップ的に計画の編成を見直すやり方の、双方向のすり合わせをやらなかったからだと思われる。</p> <p>よって、そこをうまくやれば、より体系的な計画ができるように感じる。</p> <p>また、説明の中で基本目標Aはゴールがないのではないかという話があったが、KGIがないからゴールがないという訳ではなく、もともとのゴールはパートナーシップの推進であり、結局区民がどの程度環境問題について理解し、環境にやさしい倫理的な行動をするかということと、そういう行動を取る上で協力しやすいような風土や仕組みが整っているかということだと思う。</p> <p>よって、おそらく基本目標Aに関わるのは、環境市民的な価値観や文化、それを支える仕組みがどのくらい成熟しているかということになる。</p> <p>これは手段であると言えば手段であるが、ゴールであるとも見えるので、必ずしも手段ベースのゴールにしてしまう必要はないと、個人的には思った。</p>
<p>奥会長</p>	<p>いずれも非常に重要なご指摘だと思う。</p> <p>どうKGIとKPIを整理するか。</p> <p>ボトムアップでやっていく中でKPIを設定し、それがKGIに繋がるというの</p>

	<p>は、いったりきたりの作業は当然必要になるかもしれないが、特にポイント③の施策体系を整理していく際に留意すべき重要なご指摘がいただけた。</p> <p>また、基本目標Aでは確かにKGIが設定できないということは決してないと思うし、例えば基本目標BやCに出てくるKPIが、最終的にはAの方のKGIにも繋がっていくような入れ子構造で、必ずしも目標ごとに縦割りで綺麗に整理できない場合もあるかと思うので、共通のKGIというのも当然あり得るのかなと思う。</p> <p>それと、最初にご指摘があったポイント②の調査についてであるが、事務局の想定としては、区民や事業者に関わる行為の網羅的な調査を計画策定の際にやろうということだが、そうではなくもう少しサンプリング的に、詳細な実態把握が可能なスケールで、また対象もある程度絞ってできないかというご意見であった。</p> <p>こういうことをやっていくということを計画の中に盛り込んでしまうというアイデアもあるかと思うが、事務局からご回答いただきたい。</p>
<p>環境計画課 計画推進・温暖化対策担当 係長</p>	<p>最初の説明でも申し上げたが、確かに現計画を推進していく際にモニタリングがなかなかできていない悩みがあるが、これは予算取りに左右され継続的な調査ができないという面があるためである。</p> <p>よって今いただいたご意見、ご提案は非常にありがたい。</p> <p>これについては、実際どう実態調査に置き込めるかという部分を、コスト的な視点も含めまたご相談させていただき、決めていきたいと考えている。</p>
<p>馬橋委員</p>	<p>事務局に対する質問というよりは、有識者の皆様に伺いたい。</p> <p>今後策定する基本計画は令和7年（2025年）からの計画開始であり、2030年のカーボンハーフ、2050年のゼロカーボンに向け、大田区の現計画ではバックキャストによる手法で目標を立てている。</p> <p>大田区環境アクションプランを見ると、温室効果ガス排出量は技術革新や省エネ家電の普及などで少しずつ下がってきてはいるものの、目標に対する数値の変遷は厳しい部分がある。</p> <p>こういった中で、大田区は目標値ありきでこの計画を作っていくべきなのか、それともまた少し別の視点から計画を練っていくべきなのか、そのあたりの軸をどこに置くかというのは、有識者の皆様の考えとしてはいかがか。</p>
<p>志々目副会長</p>	<p>非常に悩ましい視点だと思う。</p> <p>今のアクションプランを検討する際にも議論となったが、環境施策は大田区固有でできるものと、国レベルのエネルギー政策で決まるようなものと、都が主導しているようなものなど、様々に組み合わせられている。</p> <p>ただ、最終的な目標は都も国も2050年のカーボンニュートラルで進めているので、今まで議論にあったように、KGIやKPIを決めていく中で、大田区の主導でやる対策とそれ以外の対策を少し区分けし、大田区主導の部分がどこまで進んでいるのかが見えるような形に今後の計画を立て直していくことが、区民のご理解を得ることにつながるのではないかと、個人的には考えている。</p> <p>なお、国の方で全体の排出係数を大きく下げるような政策が取れると、多くの排出</p>

	<p>量が下がる状況にはあるので、大田区での達成が難しいという訳ではないと思っている。</p>
奥会長	<p>私も志々目副会長と同じ認識だが、馬橋委員いかがか。</p>
馬橋委員	<p>本日、まちづくり環境委員会の代表で出席させていただいて、また議会としては、区民の代表として参加させていただいている中で、環境施策というのは、どこか我が事でないところで様々なものが進んでしまっていると感じる部分がある。</p> <p>そこで我々区民一人一人がどういったことができるのかを、大田区には旗を振ってほしいという思いが個人的には強くあるので、そのあたりを今後どういった形のスタンスでやっていけばいいのか参考になった。</p>
坂野委員	<p>今の話と関連して、脱炭素戦略の策定の際にバックキャストで目標を設定したが、その中では、基本的には人口や産業の変動に起因する部分と、排出係数の変動に起因する部分と、また行動変容することによって変動する部分に分かれている。</p> <p>よって、当然人口や産業の変動や、排出係数の変動はモニタリングする必要がある。</p> <p>その中で、区民に何ができるかという視点で見たときに、排出係数の低いエネルギーを選択する、例えば持続可能なソーラーパネルをつけるかつけないかということ自体は、政策の要因にもよるが、最終的には区民の意思決定による訳である。</p> <p>さらにもう少し細かい、実際に省エネ的な生活をするかどうかという部分は、完全に区民に任せられるところなので、バックキャストのシナリオを作るときには、本来はある種のロードマップのようなものも作り、目標達成の際には区民の何割がこういう選択をしているというようなことを想定するのが理想である。</p> <p>しかし、それが非常に複雑なので、分かりやすい形で表示しきれないのと思う。</p> <p>本当は、区民が実際にこれだけ環境にやさしい行動を取るとこれだけ排出が減るといことが、ロードマップ上見えるようになるのととてもよいと思うが、なかなか簡単にはいかずに手間がかかることなので、どこまでできるか分からないが、そういうことに一歩でも近づければ、計画がより分かりやすいものになる気がする。</p>
奥会長	<p>様々なご意見とご質問をいただいた。</p> <p>これから事業者を選定し、業務委託をしていく中で内容は詰めていくということなので、本日いただいたご意見等も参考にして、作業を進めていただければと思う。</p> <p>それでは、よろしければ議題の3に移りたいと思う。</p>
<p>3 議題3 大田区環境審議会専門部会の設置について</p>	
<p>【参考資料3】</p>	
環境計画課 計画推進・温暖化対策担当 係長	<p>大田区環境審議会専門部会の設置について、参考資料3にて説明させていただく。</p> <p>なお、参考資料3は昨年の第1回審議会の資料であり今回の提案の資料ではないが、再確認ということも含め説明する。</p> <p>資料は専門部会の運営について合意した内容である。</p> <p>現計画の環境アクションプランにおいては、基本目標Aを分野横断目標と位置付</p>

	<p>け、5つの基本目標が密接な関係を保ちながら、目標達成に向かうことを定めた。</p> <p>これにより計画推進のための事項は、全体会、いわゆる審議会で包括的な審議をすることを基本とすることを、昨年度確認させていただいた。</p> <p>今回、新たな専門部会の設置ということでご提案するのは、今年3月、10年ぶりに公表された新しい生物多様性国家戦略に関連することである。</p> <p>環境基本計画には生物多様性地域戦略を包含しているため、今回二次計画の策定に向けては、この国の動きに対応した新しい視点や課題について、時間を確保した上で議論させていただきたいと考えている。</p> <p>また、令和元年度から自治体に交付されている森林環境譲与税というものがあり、来年度から、森林環境税という形で国税として1人年額1000円を、区市町村が徴収することになっているが、その用途についても今後注目されていく課題である。</p> <p>議題3では、これらの自然・環境学習分野について、専門部会の設置を提案させていただく。</p> <p>設置について承認いただければ、部会の委員については、まず審議会委員の中から希望を募る形でやりたいと考えている。</p> <p>具体的には8月18日ごろまでを目途に、メールまたは電話にてご連絡いただきたいと思います。会場参加の方は本日の審議会終了後に、私ども事務局の方にお声掛けいただいても可能である。</p> <p>希望状況により人数や全体のバランスなども考慮しながら、会長にご確認いただいた上で、8月中に決定し、皆様にお知らせできればと思う。</p> <p>今回、資料として新しい国家戦略の本体などはご用意していなかったが、環境省のホームページなどに掲載されているので、この会議が終わった後にご確認いただき、ぜひ専門部会の方に手を挙げていただきたいと思いますと思っている。</p> <p>開催時期については、計画策定の業務委託開始が10月頃からなので、その頃に合わせ、第2回の審議会の開催が2月を予定しているが、その間に1回開催できればと考えている。おおよそ秋ごろになるかと思われる。</p> <p>なお部会長の選任については、専門部会の設置要綱に基づけば委員の互選となるが、自然分野に学識ある島田副会長を候補として事務局から提案させていただき、部会開催時に承認を願う形で考えている。</p> <p>以上、こちらの議題3では専門部会の設置についてお諮りした。</p>
<p>奥会長</p>	<p>ただいまご説明があったように、自然・環境学習の分野について専門部会を設置し、生物多様性国家戦略が策定されたことも受けて、生物多様性や自然共生社会の構築に向けた大田区としての取り組みの方向性等について、議論していこうということでのご提案であった。</p> <p>まず専門部会の設置については、ご了承いただけるということによろしいか。</p> <p>== 異議なし ==</p> <p>そして、部会の部会長については島田副会長にお願いするというので事務局からのご提案があったが、島田副会長はよろしいか。</p>

島田副会長	結構である。
奥会長	<p>それでは、他の委員の皆様もご了承いただけたら、部会長の方は島田副会長にお願いするという事にさせていただきます。</p> <p>そして、部会の委員については手挙げ方式で、ご希望される方はぜひご参加いただくということで事務局から説明があった。</p> <p>後ほど事務局から案内されるメール等に期限を区切ってご回答いただく形で、ぜひご参加いただければと思う。</p> <p>この議題について、他に確認したいこと等あるか。</p>
島田副会長	<p>先ほどの議題2のあった第二次計画に向けてという中で、資料3の3ページ目、右上にある基本目標Cの生物調査が、まずは取っ掛かりになろうかと思う。</p> <p>自然環境やあるいは生物多様性は、2ページ目にあるそれぞれの基本目標を横串にするような存在になると思うので、そのあたりも十分意識し、事務局とよく相談しながら検討を進めていければと思っている。</p> <p>併せて、これから部会に参加される様々な方の意見も交えながら、進めていきたいと感じるところである。</p>
奥会長	<p>ぜひこちらの専門部会にも積極的にご参加いただくようお願いする。</p> <p>それでは、前の議題に戻っても構わないので、全体を通して何かご質問、ご意見等はあるか。</p>
全体質疑・意見	
志々目副会長	<p>今日の議論と直接は関係しないが、先ほど冒頭の山田環境清掃部長のご発言の中で、大田区がSDGsの未来都市に選定されたという話もご紹介いただいた。</p> <p>奥会長もご参画いただいている基本構想を含め、そういう大田区全体の大きな目玉の施策等をこの会議の中でもご紹介いただきながら、環境計画の見直しを側面からもバックアップできるように議論を進めていくと、計画の意味というのもグレードアップするのではないかと個人的には考えている。</p> <p>よって、また機会があればそういった情報のご提供をいただければと思う。</p>
山田委員	<p>今志々目副会長からあったように、区の方で一番大きな基本構想、来年度は基本計画ということで動いていて、そこでも専門部会が設置されており、環境と産業がセットの部会がある。</p> <p>そちらの方でも私も考えているが、基本構想などの大きな区政全体を描き出していく中で、本日各委員から様々なご発言があったように、環境というのは分野では一つの分野であるが、日々の生活・行政すべてに関わってくる横串の分野だと感じる。</p> <p>地元の様々な行政を横断できる分野だと思っているので、これから委員の皆様方のご意見を頂戴しながら、基本構想・基本計画を環境面からバックアップできるような環境基本計画をぜひつくっていききたいと思っている。</p> <p>また、それを区民の方がいかに見やすいかというところを意識したい。</p>

	<p>あと、これは私なりの持論であるが、SDGs 未来都市でSDGsを進めていくためには、楽しくやっていかないと続かないと思う。</p> <p>よって、そういった日々の行動により変わっていく部分が見えるような形の環境行政、それを支えていく環境基本計画を進めていきたいので、次回以降も行政サイドからも様々な発言をさせていただきたいと考えている。</p>
奥会長	<p>基本構想審議会の中に、今お話にあった産業と環境の部会があり、私はそちらの部会長も務めさせていただいているが、先日第1回目が開催された。</p> <p>大田区環境アクションプランが目指している3つのゼロについては、ぜひ基本構想の方でもしっかりと落とし込んでいただきたいということを申し上げ、また、横串という言葉があったが、むしろ環境というのはすべての政策の基盤となる部分だということも申し上げたところである。</p> <p>基本構想に落とし込んでもらい、それをさらに環境基本計画の方でバックアップしていくようなイメージで詰めているところなので、また随時、基本構想審議会やSDGs 未来都市に係る取り組みを環境審議会の方にも情報共有いただければと思うので、よろしく願います。</p> <p>他はいかがか。</p>
環境計画課長	<p>冒頭に千葉委員からご質問いただいた、自然観察会の応募数と参加者数のギャップについて、主管課の環境対策課に確認を取ったが、やはり新型コロナ対応により参加者数を絞ったということだったので、この場をお借りしご報告申し上げます。</p>
奥会長	<p>了解した。</p> <p>やむを得ない事情があれば致し方ないことであるが、そういう場合には誤解のないような説明が必要であると思う。</p> <p>田村委員は、本日もご発言されていないが、いかがか。</p>
田村委員	<p>話のほとんどは賛成する内容であったので、今後もう少し具体的な話が見えてきた際に意見を言わせていただきたいと思う。</p>
奥会長	<p>オンラインの大川委員はいかがか。</p>
大川委員	<p>先ほどロードマップの話が出たが、やはり区民としては、具体的にどのような活動をすれば環境にいいか、貢献できるのかという点が現状は見えてきていない部分が多いので、ぜひそのあたりを分かりやすくロードマップ的に落とし込んでいただけたらと思う。</p>
奥会長	<p>今後に向けて、計画をつくっていくにあたっての留意点・ご要望である。</p> <p>他にご意見なければこれで議事はすべて終了となるので、事務局にお返りする。</p>
4 閉会	
環境計画課長	<p>長時間にわたり活発なご議論をいただき、感謝申し上げます。</p> <p>本日の審議会はこちらで終了させていただく。</p>

<p>次回の審議会については2月9日午前10時の開催を予定している。 少し先になるが、また詳細は委員の皆様に変更してお知らせさせていただく。 先ほど申し上げたように、専門部会のご希望については改めてこちらからご案内差 し上げるので、ぜひご検討いただければと思う。 以上をもって閉会とさせていただきます。</p>

以上